

株式会社アーレスティ

2016年3月期 第1四半期 決算説明資料



2015年8月27日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
 - ◆ 2016年3月期第1四半期決算概況
- 【参考】
- ◆ 今期の見通し
 - ◆ 10年ビジョン、中期目標

TOPICS

■2014年

- 3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
公募増資を実施
- 4月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイルミントン増築工事着工

■2015年

- 3月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事着工
- 4月 アーレスティインディア 、ディーゼル2気筒シリンダーブロック(マルチス
ズキ共同開発品)の納入開始
- 6月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工

今後の予定

- 10月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事竣工予定

2016年3月期第1四半期決算概況



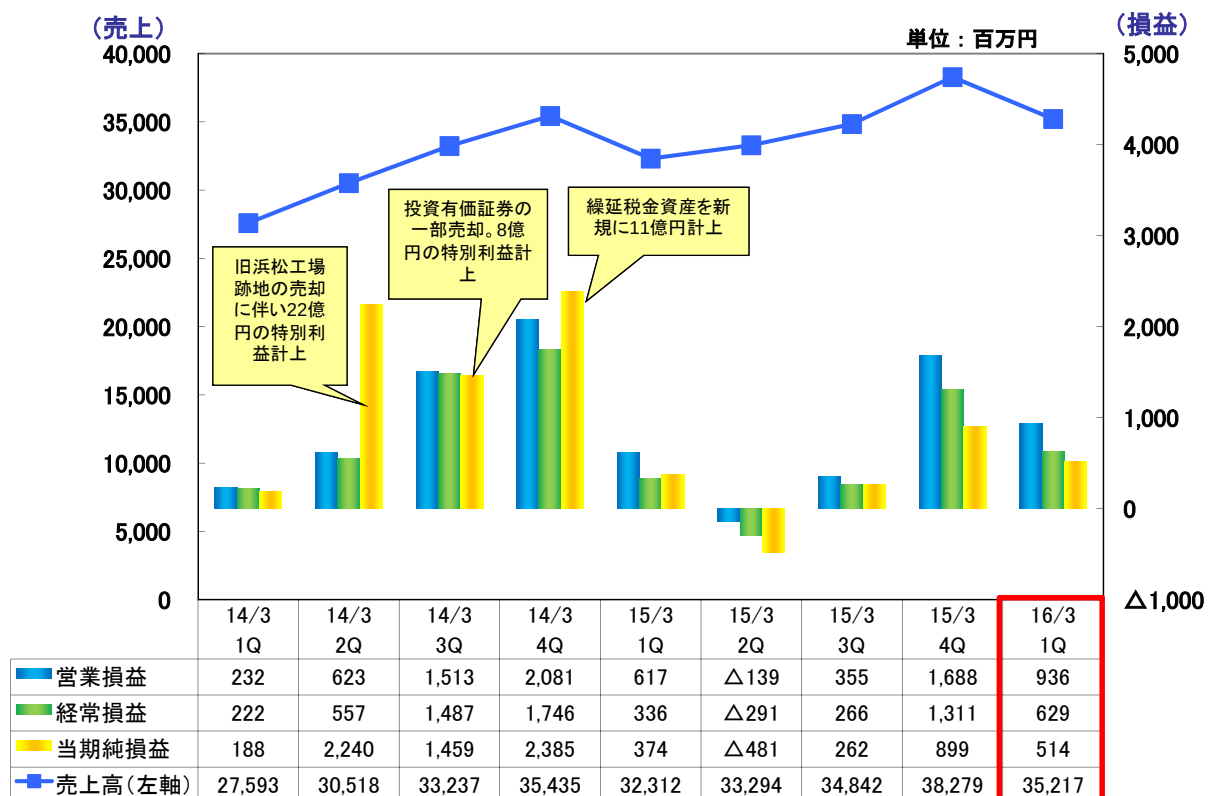
2016年3月期第1四半期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2015年3月期 第1四半期		2016年3月期 第1四半期		増減
売上高	32,312	100%	35,217	100%	2,905 9.0%
営業利益	617	1.9%	936	2.7%	319 51.7%
経常利益	336	1.0%	629	1.8%	293 87.1%
当期純利益	374	1.2%	514	1.5%	140 37.3%
EPS	14.52		19.93		5.41

- ◆ 売上高: 国内では消費増税の影響により自動車メーカーの受注減が続いたものの、地金市況影響等により売上高は微増。海外では北米で受注増と為替影響等により売上高は増加となり、売上高は352億円(前年同期比9.0%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 国内とアジアで販売量減により減益となったものの、北米で生産性の改善、収益改善効果がみられ営業利益は9億円(前年同期比51.7%増)となった。
- ◆ 経常利益: 売上増と収益性改善により6億円(前年同期比87.1%増)となった。
- ◆ 当期純利益: 経常利益の増加により5億円(前年同期比37.4%増)となった。
- ◆ EPS: 上記の結果、EPSは19.93円(前年同期は14.52円)となった。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

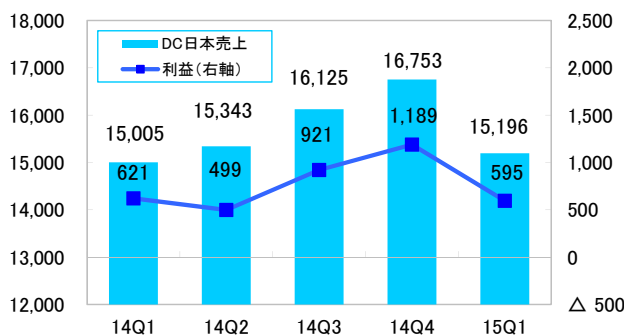
(単位: 百万円)

		2015年3月期 第1四半期	2016年3月期 第1四半期	増減
日本	売上高	15,005 100%	15,196 100%	191 1.3%
	セグメント 損益	621 4.1%	595 3.9%	△26 △4.3%
北米	売上高	9,486 100%	12,010 100%	2,524 26.6%
	セグメント 損益	△43 △0.5%	344 2.9%	387 —
アジア	売上高	6,199 100%	6,233 100%	34 0.5%
	セグメント 損益	58 0.9%	△132 2.1%	△190 —

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2015/3期1Q:51.1% ⇒ 2015/3期:51.9% ⇒ 2016/3期1Q:54.6%
※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

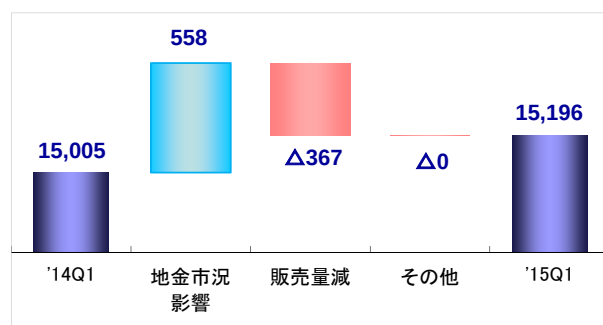
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



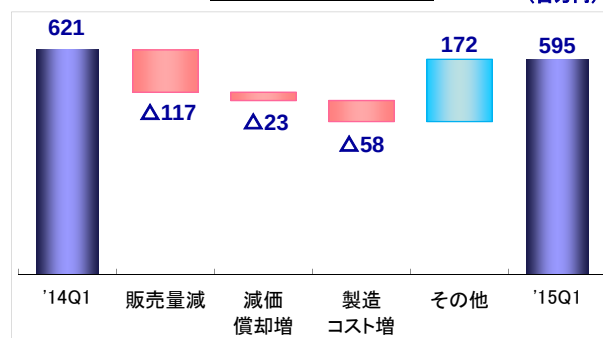
昨年の消費税増税の反動による需要減により販売量の減少が続いているが、前年同期比では地金市況の影響が加わり、売上高は微増。

セグメント利益は、販売量減の影響、製造コストの増加等の影響により、前年同期比4.3%減。

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



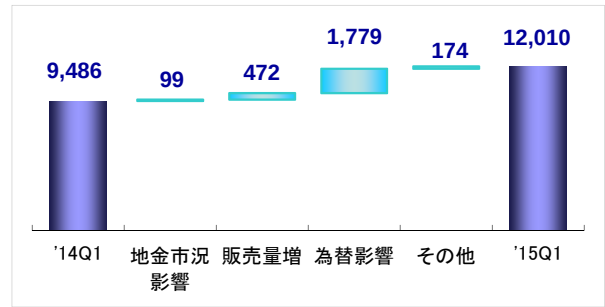
ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移



売上高増減要因

(百万円)



アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加。生産性の改善が見られ製造コストが減少。当四半期で黒字回復。

メキシコ: 受注の増加に為替影響も加わり売上高は増加。製造コストの改善が進み、前年同期比で増益。

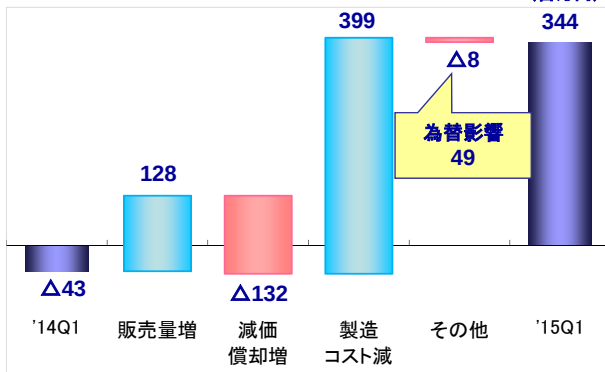
アメリカの生産性改善効果は見られるものの、まだ従前の水準まで回復していない。プロジェクトは終了したものの現在も継続的に改善活動を実施中

※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(14Q1→15Q1)
米\$ 102.12→121.37
メシコ(米\$) 103.27→119.58

セグメント損益増減要因

(百万円)



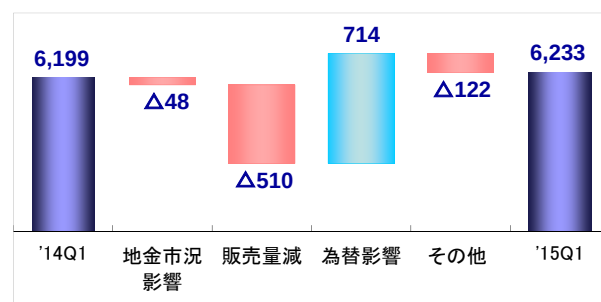
ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移



売上高増減要因

(百万円)



中国: 中国の景気減速に伴う自動車市場低迷の影響を受け、販売量は減少。為替影響を受け前年同期比では売上高は微増。合肥は黒字を継続。中国全体の収益は販売量減が響き前年同期比で減収減益。

インド: 販売量増、為替影響を受け売上高が増加。製造コストの改善も進み、損失が縮小。

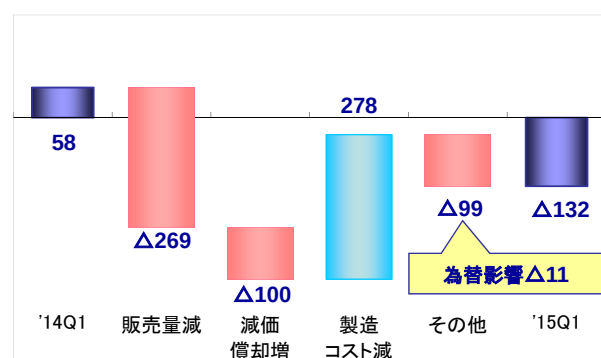
アジアの収益は悪化

※中国 1-12月
インド 4-3月

平均レート(14Q1→15/Q1)
人民元 16.92→19.16
インドルピー 1.71→1.92

セグメント損益増減要因

(百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位 : 百万円)

		2015年3月期 第1四半期	2016年3月期 第1四半期	増減
アルミニウム事業	売上	1,129 100%	1,272 100%	143 12.7%
	セグメント損益	△0 △0.0%	74 5.8%	74 —
完成品事業	売上	491 100%	503 100%	12 2.6%
	セグメント損益	△19 3.9%	33 6.6%	52 —

アルミニウム事業：受注量が前期比ほぼ横ばいで推移したものの、販売単価がアップしたことにより、売上高は12.7%増。セグメント損益は、使用原材料価格の下落及び原価低減活動の影響等により74百万円となった。

完成品事業：主要販売先である通信会社のデータセンター向け物件や半導体関連企業のクリーンルーム物件の受注増により売上高は2.6%増。セグメント利益は増収効果と原価低減活動により33百万円となった。

貸借対照表

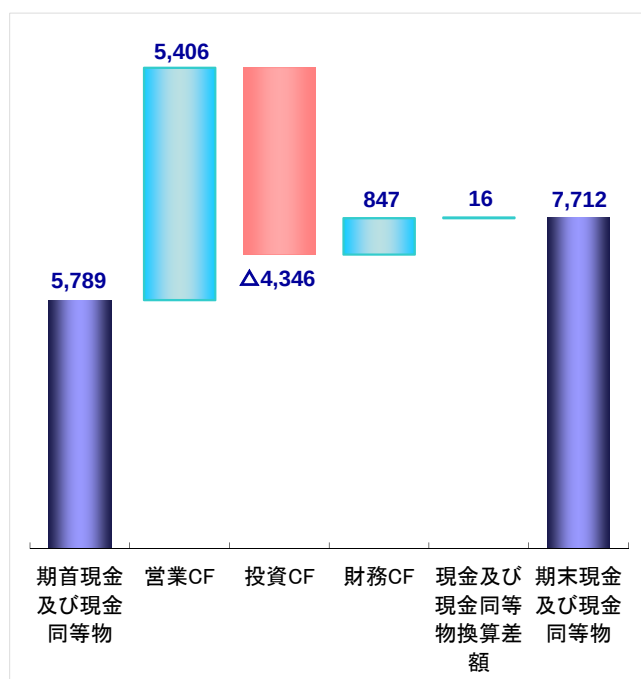
(単位 : 百万円)

	2015年3月期	2016年3月期 第1四半期	増減
流動資産	48,464	48,247	△217
現預金	5,885	7,751	1,866
売上債権	25,679	24,304	△1,375
棚卸資産	12,602	12,015	△587
固定資産	100,367	102,069	1,702
有形固定資産	88,133	88,998	865
資産合計	148,831	150,317	1,486
負債合計	86,728	87,243	515
仕入債務	20,936	19,578	△1,358
長短借入金	46,838	47,941	1,103
純資産合計	62,103	63,073	970
自己資本比率	41.7	42.0	

- ◆ 資産合計の為替影響は2.8億円増加
- ◆ 翌期首の資金として現預金増加
- ◆ 中国広州、合肥の売上減少により売上債権が減少
- ◆ 海外を中心とした設備投資により有形固定資産が増加
- ◆ 中国広州、合肥の受注減により仕入債務が減少
- ◆ 翌期首の資金として長短借入金が増加（ネット借入金は減少）
- ◆ 当期利益、有価証券の評価差額により純資産が増加

キャッシュ・フロー

(百万円)



営業CF 5,406

税金等調整前当期純利益	641
減価償却費	3,709
売上債権の減少	1,484
たな卸資産の減少	644
仕入債務の減少	△ 1,383
未払消費税等の減少	△ 204
法人税等の支払額	△ 743
その他	1,258

投資CF △ 4,346

有形固定資産の取得	△ 4,392
有形固定資産の売却	7
その他	39

財務CF 847

短期借入金の減少	△ 192
長期借入金の増加	1,239
配当金の支払	△ 140
その他	△ 60

- ◆ 海外を中心に営業CFの範囲内で設備投資を実施。
- ◆ 翌期首の決済用資金として期末現金及び現金同等物が増加

【参考 2015年5月29日説明資料】
今期の見通し



2016年3月期業績予想

(単位: 百万円)

	2015年3月期		2016年3月期 計画		増減
売上高	138,727	100%	146,200	100%	7,473 7.3%
営業利益	2,521	1.8%	4,250	2.9%	1,729 68.6%
経常利益	1,622	1.2%	3,300	2.3%	1,678 103.4%
当期純利益	1,054	0.8%	2,000	1.4%	946 89.6%
EPS	40.85		77.45		36.60

- ◆ 売上高: 国内は円安による国内生産増が一部で期待されるものの、消費増税後の本格的な需要回復は遅れると見込まれる。海外は北米で販売量増と為替影響により増加が見込まれ、アジアでは中国の販売量動向が懸念されるが、中国全体としては販売量増と為替影響により増加する見込みであることから、連結売上高は前期比74億円の増加を予想。
 - ◆ 営業利益: 国内は販売量減等により減益、アジアは生産能力を下回る販売量が見込まれることから減益を予想するも、北米での収益改善により、連結では前期比17億円増を予想。
 - ◆ 経常利益: 営業利益の増益に伴い増益を予想。
 - ◆ 当期純利益: 経常利益の増益に伴い増益を予想。
- 前提為替レート: 115円/米ドル、19円/人民元、1.9円/インドルピー

2016年3月期業績予想

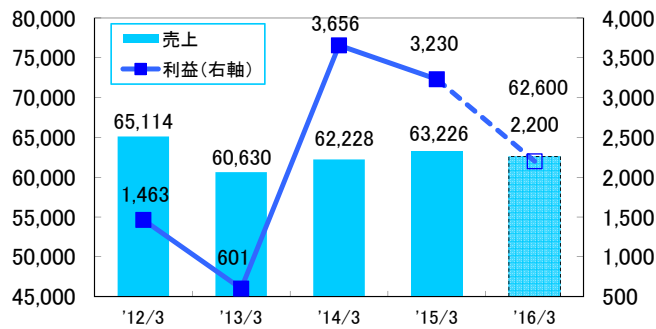
(単位: 百万円)

	2015年3月期	2016年3月期 計画	増減	増減率
売上高	138,727	146,200	7,473	7.3%
ダイカスト日本	63,226	62,600	△626	△1.0%
ダイカスト北米	40,654	44,500	3,846	9.5%
ダイカストアジア	27,584	32,100	4,516	16.4%
アルミニウム	5,015	5,200	185	3.7%
完成品	2,245	1,800	△445	△19.8%
営業利益	2,521	4,250	1,729	68.6%
ダイカスト日本	3,230	2,200	△1,030	△31.9%
ダイカスト北米	△1,295	1,400	2,695	—
ダイカストアジア	662	500	△162	△24.5%
アルミニウム	5	100	95	—
完成品	83	50	△33	△39.8%
消去または全社	△165	—	165	—
経常利益	1,622	3,300	1,678	103.4%
当期純利益	1,054	2,000	946	89.6%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2015/3月期: 51.9% ⇒ 2016/3月期: 55.0%

ダイカスト日本

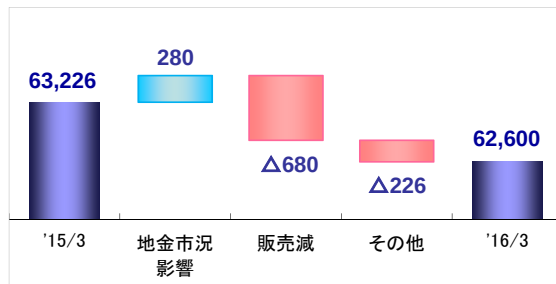
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



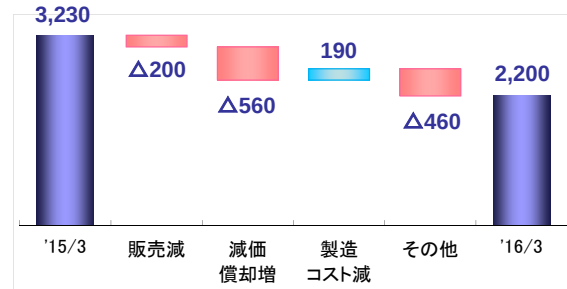
売上高: 円安による国内生産増が一部で期待されるものの、消費増税後の本格的な需要回復は遅れると見込まれ、減収を予想。

利益: 減収の影響、減価償却費の増加、分割回収金型の利益減少等が見込まれることから減益を予想。

売上高増減予測 (百万円)

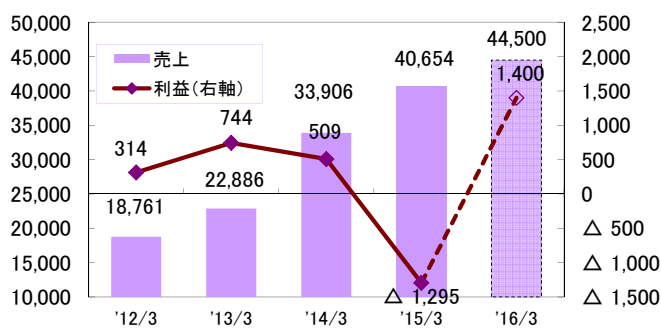


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカスト北米

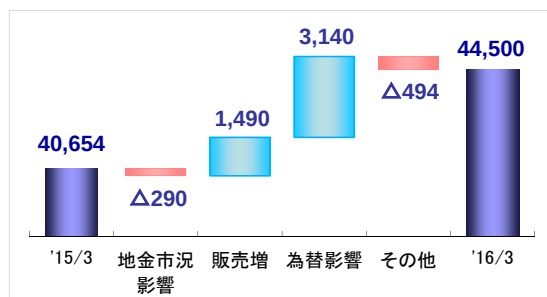
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



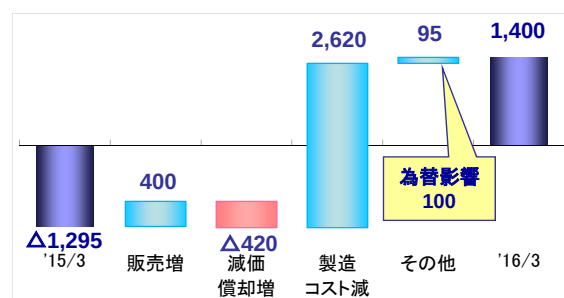
売上高: 前期の伸びよりも小さいものの販売量増加及び為替影響により売上高は増加する見込み。

利益: 減価償却費の増加があるものの、アメリカ工場の生産性改善に伴う収益回復及びメキシコ工場の増収効果と生産性改善効果によりV字回復を予想。

売上高増減予測 (百万円)

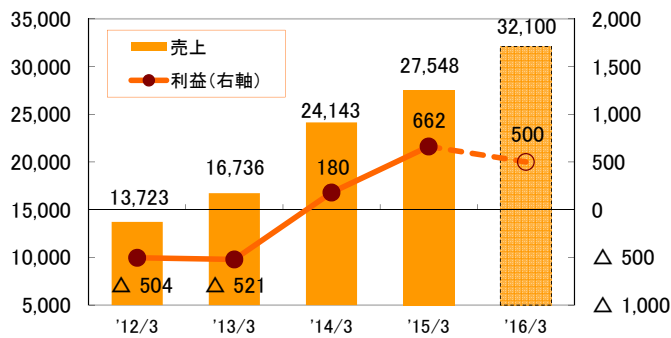


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカストアジア

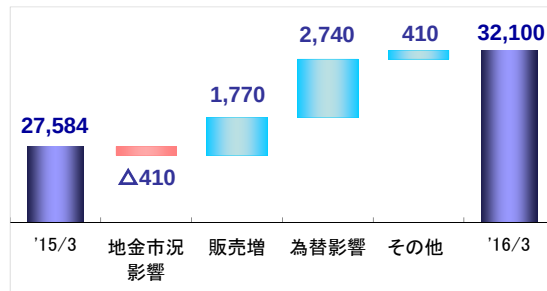
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



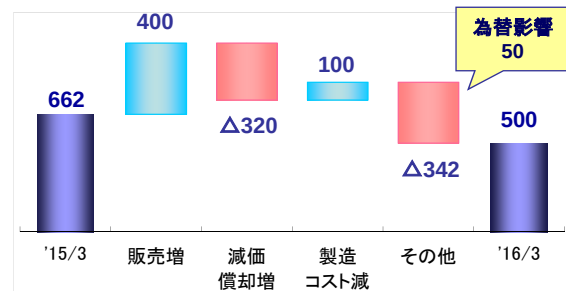
売上高: 生産能力を満たさないものの、販売量の増加、為替影響により、中国、インド共に売上高は増加。

利益: 増収効果はあるものの、減価償却費の増加等により減益を見込む。インドは増収効果等により収益性が改善し損失が縮小する見込み。

売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増減予測 (百万円)



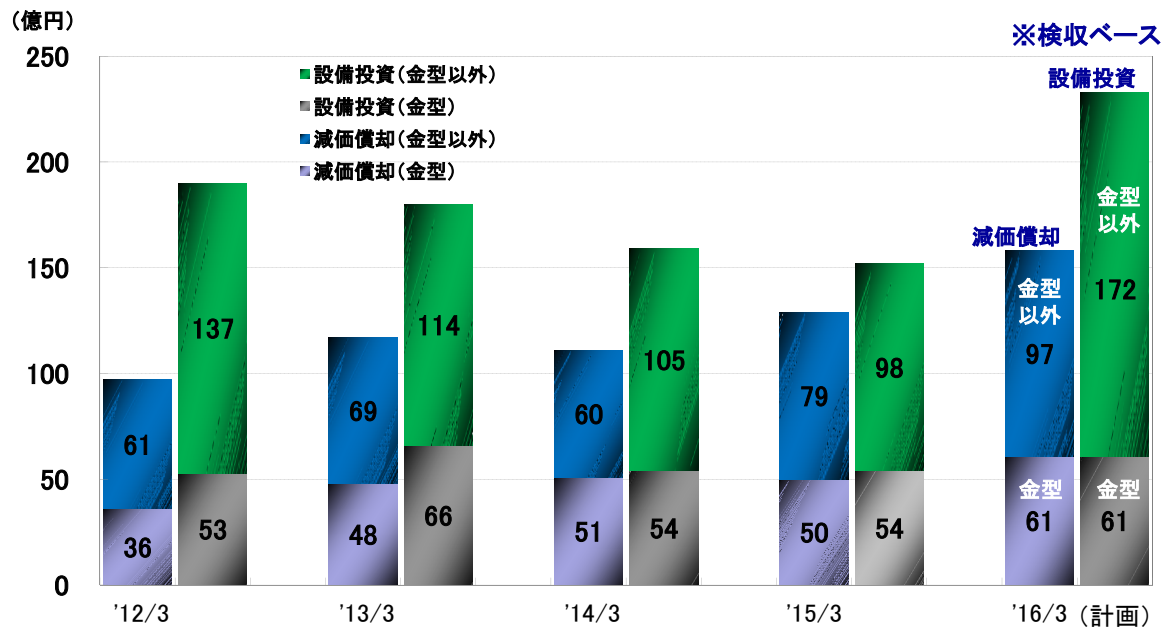
配当の状況

(単位:円)	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	6	3	14	12	12
中間配当	3	3	8	6	6
期末配当	3	—	6	6	6
一株当たり純損益(連結)	65.87	△ 7.76	287.10	40.85	77.45
配当性向(連結)	9.1%	—	4.9%	29.4%	15.5%

- ◆ 2015年3月期は、期初計画の業績を達成できなかったものの、期初予測どおり年間12円の配当を実施
- ◆ 2016年3月期は、年間12円の配当を予想(配当性向は当面15%程度を目安に)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆国内外ダイカスト事業の能力拡充等の設備投資を計画



※15/3に計画した設備投資が遅れていること、海外ダイカスト拠点の設備投資は継続しつつ、国内の設備投資を増加させることから、16/3期は大幅な増加を計画。

【参考 2015年5月29日説明資料】
10年ビジョン
中期目標(2017年3月期)



当社を取り巻く環境

グローバル化と外注化の流れを掴み、海外事業を拡大

➤ 世界の自動車生産は新興国を中心に増加

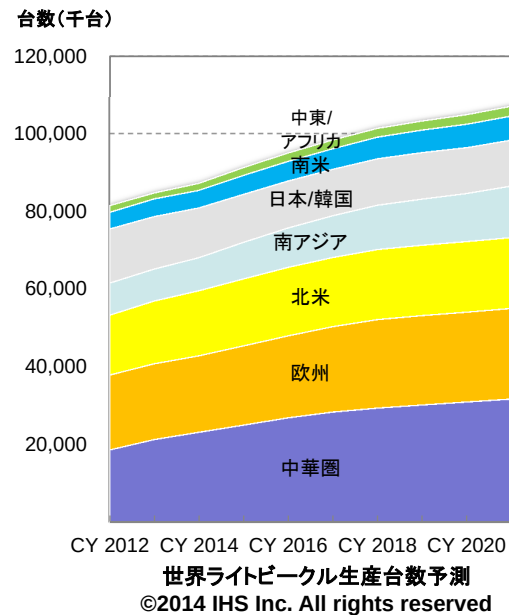
- ✓ グローバルで2000万台強増加
(日本の生産台数の約2倍に相当する需要増)

➤ 外注化への流れ

- ✓ 自動車生産台数が増えるなか、自動車メーカーの設備投資の優先順位からダイカストは外注化へ
- ✓ 機械加工までを外注化
中国で日産のエンジンブロックを量産

➤ グローバルに展開するダイカストメーカーは多くない

- ✓ 当社の位置付け: 事業規模・技術力・開発力は業界トップ企業の一つ



当社の強み

➤ 技術力、グローバル生産拠点展開

大型の高難易度製品(例えば、エンジンブロック、ミッションケース等)を国内外で供給できる

➤ ダイカストの設計から生産までの総合的な技術開発力

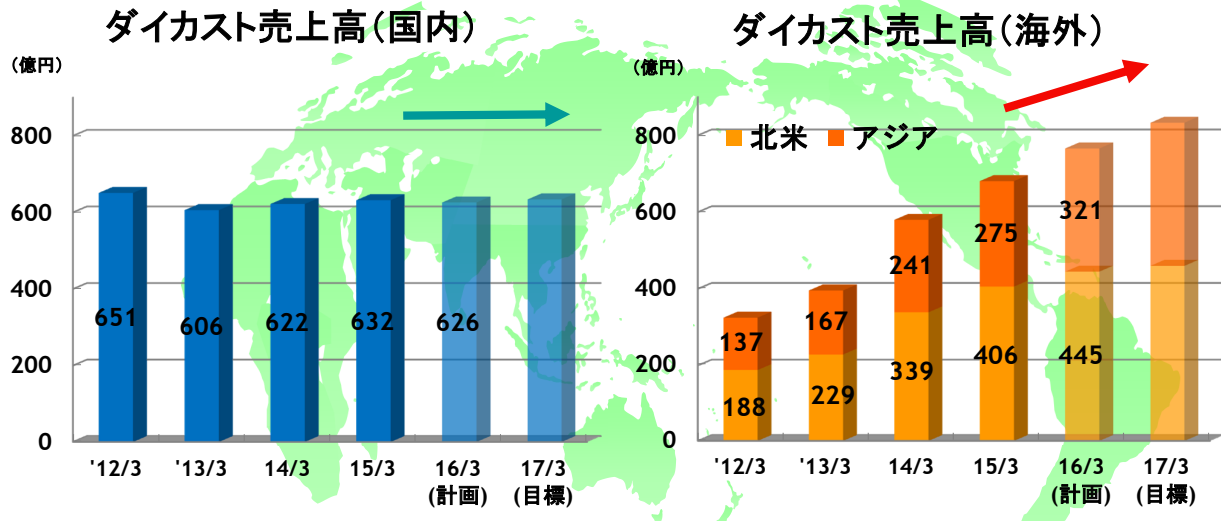
開発段階からお客様と品質・生産性等のつくり込みができる

➤ 一気通貫生産体制

原材料生産・金型製作・鋳造・機械加工まで対応できる

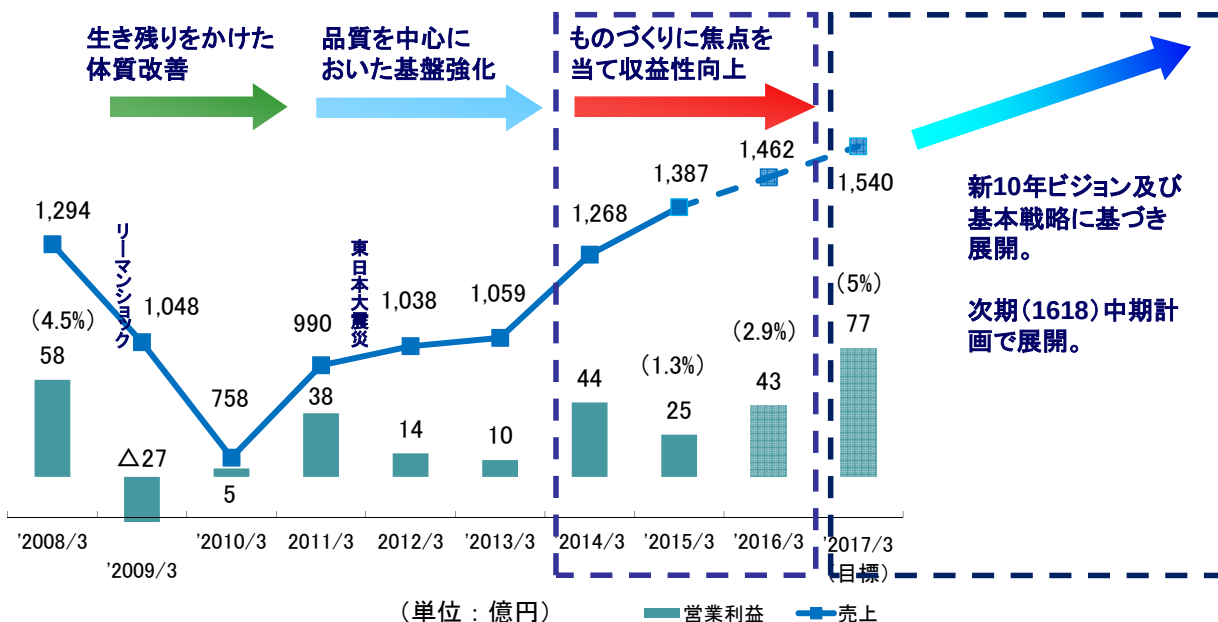
ダイカスト事業売上高動向

海外でのさらなる売上の拡大



- 新10年ビジョンに基づき、顧客からの信頼を究めつつ、安定した業績を上げながら持続的成長を目指す。
- 日 本: 中期的には国内需要は縮小の方向であるが、積極的な営業活動により一定の売上高と収益を確保。
- 北 米: 需要拡大に対応した能力拡充投資を行いつつ、収益性を向上させていく。
- アジア: 生産性改善等によりインドの黒字化を図り、中国の需要拡大に対応しつつ収益性を向上させていく。

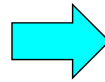
これまでの推移と中長期の方向性



- ✓ グローバル需要拡大に対応し、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業を拡大
- ✓ ものづくりに焦点を当てた1315中期計画の推進(新10年ビジョンの基本戦略を一部取り入れ)
- ✓ 新10年ビジョン及び基本戦略に基づく中期計画は、次期1618中期計画で本格的に展開

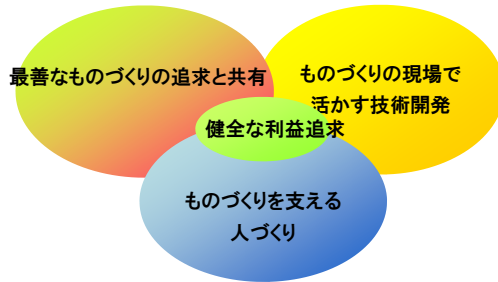
10年ビジョン

2012年版



2015年版

ダイカストを核としたグローバルTOP企業
「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」



信頼を究めよう 2025

ありたい姿

お客様からの信頼No.1

グローバルで車の軽量化に役立つ

売上高2000億円+α

足元をしっかりと見つめて、
お客様の信頼と期待に応え、
持続的成長を目指す。

1315中期計画

中期経営計画2013-2015年

項目	実施事項
最善なものづくりの追求と共有	現場と設計が一体となったものづくりの再構築、全拠点で同一の品質・生産性の実現、生産性の向上等の施策を展開
ものづくりの現場で活かす技術開発	ものづくりを究めるための技術ロードマップにもとづく施策、パワートレイン以外の市場の開拓等の施策を展開
ものづくりを支える人づくり	実践に裏づけされたスキルを持つ人づくり、3現・2原に基づいた活動ができる技術者の育成等の施策を展開
健全な利益追求	収益力向上による持続的な企業成長と成長市場への展開、業務の効率化、投資効率の高い加工設備構想の実現、工程別・課別コストの見える化による収益管理レベルの向上等の施策を展開

上記実施事項に大きな違いはないが、新10年ビジョンの基本戦略の一部を取り入れ。
新10年ビジョンに基づく基本戦略の展開は、次期中期(16-18)計画で。

2017年3月期 目標数値

	2015/3期 実績	2016/3期 予想	従来目標 (2017/3期) 2014/5/9公表	新たな目標 (2017/3期) 2015/5/8公表
売上高	1,387 億円	1,462 億円	1,430 億円	1,540 億円
営業利益率	1.8 %	2.9 %	5.0 %	5.0 %
ROA (総資産純利益率)	0.7 %	—	3.0 %	3.0 %
ROE (株主資本当期純利益率)	1.8 %	—	7.0 %	7.0 %

売上高の目標値を変更



Casting Our Eyes
on the Future

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。